

開催日時	2006年3月22日（水）9：35～12：15
場 所	新・都ホテル 地下1階 末広の間
参加者数	委員13名、河川管理者52名

1. 検討の内容

①河川管理者からの説明（ダム等の管理に係るフォローアップについて）

河川管理者より配付資料「ダム等の管理に係るフォローアップについて」を用いて、河川管理者が作成するフォローアップ調査報告書への意見を述べる委員会を淀川水系流域委員会で兼務するとの説明がなされた。その後、委員との意見交換がなされた。主な意見は以下の通り（例示）。

- ・フォローアップ調査に対する意見は文書で示す必要があるのか（委員長）。
 - ←文書を提出して頂くことになる。河川管理者の示す調査報告書に対して「その方向でよい」「この点は修正すべきだ」等の意見を述べて頂くことになるのではないかと（河川管理者）。
- ・フォローアップの対象となるダムに淀川大堰は含まれていないのか。淀川大堰のフォローアップも考えていかないといけない。
 - ←フォローアップ制度はダム事業を対象にしているため、淀川大堰は外れている。淀川大堰の調査は行っているため、整備内容シートへの意見として、地域別部会で議論して頂きたい（河川管理者）。

②河川管理者からの説明と意見交換（河川整備計画基礎案に係る具体的な整備内容シートについて）

河川管理者より、配付資料「淀川水系河川整備計画基礎案に係る具体的な整備内容シート」の説明がなされた後、委員との意見交換がなされた。主な意見交換は以下の通り（例示）。

- ・整備内容シートに記載されている各事業の重要度をどう考えればよいのか。河川管理者としての重要度はあるのか。河川管理者に優先して議論すべき項目を示してもらおう方が効率的ではないか。
 - ←「重要度」という言葉が適切だとは思わないが、河川管理者として大事だと思っている事業はある。河川管理者から提案した方がよいのであれば、選ぶことは可能だ（河川管理者）。
 - ←まずは委員会側で全てチェックしてから、河川管理者に質問をした方がよい。もちろん、河川管理者が説明したい項目を選らんでもよい。2つのやり方を平行して進めればよい（委員長）。
 - ←委員会や部会で説明する場合は、説明する事業を絞って、一般の方々にもわかるような説明をする（河川管理者）。
- ・委員会の提言や意見書がきちんと反映されているかどうかという視点からチェックすることも大事だ。

○淀川部会に関連する事業に関する意見交換

- ・部会の役割分担を考えておくべきだ。利水に関する事業や天ヶ瀬ダム再開発は複数の地域別部会にまたがった事業だ。利水・水需要管理部会ですべきことと淀川部会でやるべきことは違って来るだろう。
 - ←利水だけを切り取って議論できるものもあるが、淀川部会でやってもらわなければならないこともある。多少の議論のオーバーラップはあった方がよい。

○猪名川部会に関連する事業に関する意見交換

- ・環境目標が検討中とのことだが、いつまでに出てくるのか。はっきりしないと議論しにくい（部会長）。
 - ←期限は明確になっていない（河川管理者）。
- ・一部の事業でA3表の進捗状況欄が抜けている。一庫ダムについても書かれていない。追記して頂きたい。
 - ←今後、整理していきたい（河川管理者）。

以上

※結果報告は主な決定事項等の会議結果を迅速にお知らせするために庶務から発信させていただくものです。